

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-143475  
(P2019-143475A)

(43) 公開日 令和1年8月29日(2019.8.29)

(51) Int. Cl. F 1 テーマコード (参考)  
E O 2 D 27/12 (2006.01) E O 2 D 27/12 A 2 D O 4 6

審査請求 有 請求項の数 9 O L (全 23 頁)

(21) 出願番号	特願2019-106778 (P2019-106778)	(71) 出願人	000000446 岡部株式会社
(22) 出願日	令和1年6月7日(2019.6.7)		東京都墨田区押上2丁目8番2号
(62) 分割の表示	特願2015-194147 (P2015-194147) の分割	(71) 出願人	598015084 学校法人福岡大学
原出願日	平成27年9月30日(2015.9.30)		福岡県福岡市城南区七隈8丁目19番1号
(31) 優先権主張番号	特願2015-86785 (P2015-86785)	(74) 代理人	100094042 弁理士 鈴木 知
(32) 優先日	平成27年4月21日(2015.4.21)	(72) 発明者	横山 真一 東京都墨田区押上2丁目8番2号 岡部株式会社内
(33) 優先権主張国・地域又は機関	日本国(JP)	(72) 発明者	平山 貴章 東京都墨田区押上2丁目8番2号 岡部株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 杭頭補強構造

(57) 【要約】

【課題】 応力伝達作用及び定着力を十分に確保することが可能であって、基礎中に埋設される配筋と干渉が生じるおそれを低減できると共に、杭頭部に対して応力伝達可能に設ける作業を容易化することが可能で、構造強度を適切に確保できる杭頭補強構造を提供する。

【解決手段】 杭 1 と基礎 2 との間で杭頭部 1 a に作用する力を伝達するために、基礎中に上部側が埋設されると共に、下部側が杭頭部の鋼製部分と応力伝達可能に設けられる杭頭補強部材 3 を有する杭頭補強構造であって、杭頭補強部材は、杭頭部の直上を跨ぐ横向き板状部分 3 h を備え、横向き板状部分は、杭頭部の両側に配置される上下方向縦向き板状部分 3 a を連結し、杭頭補強部材は、横向き板状部分が杭頭部に接合されて杭頭部の鋼製部分との間で応力伝達すると共に、上下方向縦向き板状部分を横向きに貫通する貫通孔 3 b と、上下方向縦向き板状部分の表面から突設される突出部 3 d とを備える。

【選択図】 図 9

